

N

EWS LETTER



芝浦工業大学
教育イノベーション推進センター
ニュースレター



発行 / 芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター

Contents

2 教育イノベーション推進センター活動紹介

キャリア教育部門
部門長 長谷川 浩志

3 教育イノベーション推進センター活動紹介

FD・SD推進部門
部門長 榊原 暢久

4 教育イノベーション推進センター活動紹介

教育・学習支援部門
部門長 徳永 幸生

5 教育イノベーション推進センター活動紹介

グローバル推進部門
部門長 新井 民夫



「SITグローバルデー 2015」実施報告
ユニバーシティ・グローバル・アドミニストレーター
影山 礼子

6



「授業における創意工夫」実践事例シリーズ
第2回
Active Learning = Passive Teaching
工学部共通学群物理科目 中村 統太

7



「2015年度FD・SD講演会」開催
FD・SD推進部門 センター員 ホートン 広瀬 恵美子

8



2014年度優秀教育教員顕彰
優秀教育教員選考委員会 委員長 中村 朝夫

教育イノベーション推進センター 活動紹介

全学的な教育改革・改善活動を推進する教育イノベーション推進センターは、2015年度新たな体制で始動しました。各部門における2015年度の活動計画を紹介します。



▲教育イノベーション推進センター組織図

IR部門 | IR部門長 井上 雅裕

センター員

井上 雅裕 (システム理工学部電子情報システム学科)
小野 直樹 (工学部機械機能工学科)
石渡 哲哉 (システム理工学部数理科学科)
長谷川 忠大 (大学院理工学研究科)

平田 貞代 (大学院工学マネジメント研究科)
中西 佳子 (教育イノベーション推進センター)
坂井 直道 (教育イノベーション推進センター)

教育の質保証のためには、学修・教育目標を明確に設定し、これを実現するための体系的なカリキュラムを設計し、学修成果をアセスメントし、これをもとに不断の教育改善のPDCAサイクルを回すことが必要です。

IR部門では、その手段として、ルーブリック(学修成果水準表)を卒業研究(全学科)とPBL(Project Based Learning)に導入推進し、さらに、学生の主体的学修と振り返りの手段としてe-ポートフォリオの構築と展開を実施してきました。

「平成26年度大学教育再生加速プログラム(AP事業)」の採択を受け、学修成果の可視化と学修時間の保証を推進するため、同事業のe-ポートフォリオWGと密接な連携を行います。また、AP事業と連携し、教職学協働での教育改革を行うためのワークショップを企画・実施していきます。

【活動計画】

①IR部門

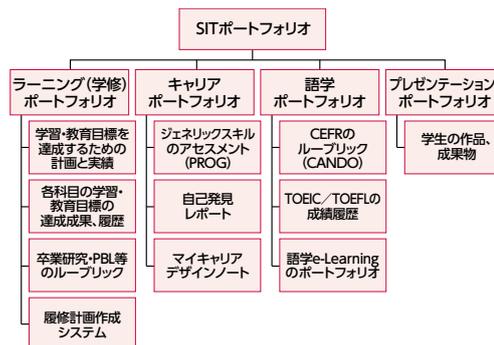
- 卒業研究およびPBLの教育の質保証のため、ルーブリックとe-ポートフォリオの導入推進
- e-ポートフォリオ(SITポートフォリオ)の企画、計画、設計、運用(中期計画を含む)学生の学修活動がe-ポートフォリオに集約され、毎日の学修、振り返りが実施できるよう、ダッシュボード(トップ画面)と各ポートフォリオをつなぎ、操作性を改善する。

②AP事業 e-ポートフォリオWG

- 学修時間の保証のため学修ポートフォリオの拡張と授業外学修時間を保証する学修マネジメントシステムの導入
- e-ポートフォリオの継続的改善と利用率向上のため、学生モニタリング、フィードバックの仕組みの構築

③IR部門、FDSD部門、AP事業協同

- 教職学協働のワークショップによる教育改革の推進(定例の年2回のワークショップに加え、AP事業と連携し、学生と職員の連携研修を実施する)



▲e-ポートフォリオ(SITポートフォリオ)の構成例



▲教職学協働のワークショップ

キャリア教育部門

キャリア教育部門長 長谷川 浩志

センター員

長谷川浩志 (システム理工学部機械制御システム学科)
中村朝夫 (キャリアサポートセンター長)

志村秀明 (工学部建築学科)
岡田佳子 (工学部共通学群)

中西佳世子 (教育イノベーション推進センター)
坂井直道 (教育イノベーション推進センター)

理工系大学に進学した動機を尋ねると、ものづくりや最先端の研究がしたいといった回答からキャリアイメージを伴った具体的な目標、建築家になりたい、医療福祉機器の設計開発がしたい、自動車会社に入りたい等の回答が返ってきます。これは、学生にとって理工学教育がキャリア教育そのものであるということです。このような背景を踏まえて、キャリア教育部門では、大学教育再生加速プログラム事業 (AP事業) と連携して、初年次教育から専門教育までのキャリアパスを見据えた主体的な学びを支援するために、つぎのような活動計画を通じて、学生自身の将来、すなわちキャリアを見据えた学修過程の振り返りと主体的な履修計画の実現を進めていきます。



▲PROGテストの結果を友人と共有

【活動計画】

- ① **キャリアの視点から、初年次教育から専門教育までの教育プログラムの可視化**
 - ・求められる人材から学部・学科の育成する人材像、履修モデルの逆引き。
 - ・「入門」、「概論」、「総論」、「創る」、「総合導入演習」などの学部・学科の初年次教育を担う科目を認定。
- ② **SITポートフォリオを活用したキャリアデザインの支援**
 - ・キャリアデザインを支援するために、求められる人材、PROGテストによるリテラシーとコンピテンシーの結果、履修モデル、マイキャリアデザインを学生視点で統合し、キャリアポートフォリオへ反映。
- ③ **社会的・職業的自立力(知識活用力、対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力)の育成に寄与する科目の明示と活用**
 - ・授業を通じて伸ばすことができる社会的・職業的自立力の明示の推進。
 - ・キャリアの視点から学部・学科の履修モデルと社会的・職業的自立力の育成科目の関係の可視化。
- ④ **PROG[※]テストによる社会的・職業的自立力の客観的な測定と活用**
 - ・PROGテストによる客観的な測定の推進、
 - ・社会的・職業的自立力を促す科目の選定方法と推奨科目やガイドラインの検討。
 - ・キャリアデザインを支援するために、社会的・職業的自立力を育成する科目による個別GPA算出。

※PROG: 専攻・専門に関わらず、大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向・ジェネリックスキルを育成するためのプログラム。

TOPICS

「男女共同参画推進室」の展示

▶▶▶ 5月31日(日)、大宮キャンパスで開催された「芝浦工業大学第19回大宮祭」に併せ、男女共同参画推進コーナーを開設しました。

コーナーには、男女共同参画推進パネル6枚と、男女共同参画推進室の刊行物を展示し、来場者への説明と資料配布を行いました。

卒業生、在学生の保護者、高校生とその保護者、入学間もない1年生の女子学生等が立ち寄り下さり、約100名の来場者に資料を配布しました。



女子学生に男女共同参画推進の取組を紹介

FD・SD推進部門

FD・SD推進部門長 榊原 暢久

センター員

榊原 暢久 (工学部共通学群)
 田中 秀穂 (大学院工学マネジメント研究科)
 ホートン広瀬 恵美子 (工学部共通学群)

間野 一則 (システム理工学部電子情報システム学科)
 奥田 宏志 (システム理工学部生命科学科)
 谷田川 ルミ (工学部共通学群)

中西 佳世子 (教育イノベーション推進センター)
 坂井 直道 (教育イノベーション推進センター)

我々の部門のミッションは、教職員および教学組織に対するFD・SD支援にあります。一般に理工系大学では、JABEE^{※1}プログラムに代表されるカリキュラムや教育制度に関するミドルレベルのFDが比較的進んでいます。一方、教員個々への支援策は本学でも不足していました。そのため本部門では、教員個々の授業改善支援に関するミクロレベルのFDプログラムを充実させています。SD支援策については教学に関わるSDを主な対象とし、AP事業に関わるいくつかの取り組みを、関係する教職員の方々と協働しながら少しずつ進めていきます。また、FD・SDへの学生参画の取り組みとして、SCOT^{※2}を育成し、ミクロレベルのFD支援プログラムの1つとして提供しています。



▲SCOT研修



▲2015年度新任教職員研修



▲授業デザインワークショップ

【活動計画】

部門で提供するプログラム

- ①ティーチングポートフォリオ(TP)作成WS、TP完成WS
 TP作成WSでは、TPの基本的な構造や特徴について学び、メンターとの会話をしながら、自身のTP素案を1泊2日で作成します。後日参加頂くTP完成WSでは、1日のWSでTPを完成させます。
- ②授業外学習を促すシラバスの書き方WS
 このWSでは、シラバス(教師が初回授業時に配布する数ページにわたる授業計画)の基本的な構造や特徴について学び、自身のシラバスを作成するための基本を身につけます。
- ③授業デザインWS
 このWSでは、学生の学習を促すための基本的な授業デザインの方法を身につけます。シラバスWSに引き続き受講すると、到達目標設定からの流れがスムーズに理解できます。
- ④学生主体の授業運営手法WS
 このWSでは1日かけて、知識の定着・確認を目的とした講義等で実践されるアクティブラーニングを効果的に実践するための、学生主体の授業運営方法を身につけます。
- ⑤他に、「FD・SD講演会」、「新任教職員研修」、「入職3年目以内フォローアップ研修会」等を提供しています。



案内：学生主体の授業運営手法

※1 JABEE:
 日本技術者教育認定機構の略。技術者教育の振興、国際的に通用する技術者の育成を目的として設立。

※2 SCOT:
 Students Consulting on Teachingの略。
 大学の授業に関連した基礎的知識、授業コンサルティングに必要な技術、責任感や態度を身につける研修を受け、審査・承認された学生。

教育・学習支援部門

教育・学習支援部門長 徳永 幸生

センター員

徳永 幸生 (教育イノベーション推進センター)
栗島 英明 (工学部共通学群)

吉村 建二郎 (システム理工学部機械制御システム学科)
中西 佳世子 (教育イノベーション推進センター)

坂井 直道 (教育イノベーション推進センター)

本部門の使命は、全学に共通する教育・学習支援に関わる事項について種々の課題を取り上げ、関係する学部・部門と協力し実現(解決)に向けて具体策を協議し実行/支援することです。

2015年度は新たなメンバーで活動が始まりました。これまでの主な取り組みである、学習支援、障がい学生のサポート、「メンタルケア」の講義などに加え、今年度は、「学びの実態」に関する調査・分析、さらには大学という新しい環境の中で、自律的に学び修学を全うするため、日々の生活を自己管理する習慣を身に着けることを狙いとしたポートフォリオによる

指導の試行、などについても検討に着手しています。

なお、「メンタルケア」の講義については、2015年度から学生教職員相談室にバトンタッチし継続して開講しますが、本部門では今後も必要に応じて支援します。

また、既に各学部で取り組んでいる教育・学習支援で効果の上がっている項目については、情報を共有化し全学部へ展開すること。まだ事例は少ないが、いずれ全学で実施することが見込まれる課題については、当該部署と協議しながら鋭意取り組みます。

【活動計画】

① 学習支援・サポート体制

さまざまな入試を経て入学した学生たちの学習支援は極めて重要であり、既に各学部ではそれぞれの特徴ある教育システムと整合する形で運用されています。この学習支援をより効果的にする方策、充実させるための体制、などについて適宜各学部間で意見を交換し更なる支援強化を図ります。一方、学習支援システムが稼働し各学部とも数年が経過していることから、その意義や目標を再度確認するとともに、現状を評価し、今後の体制や支援内容について検討する時期に来ていると認識しています。

② 障がい学生のサポート

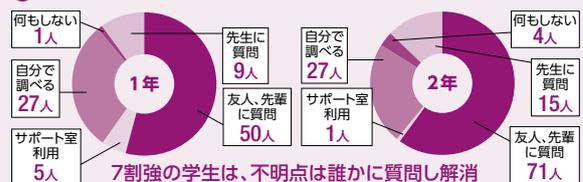
障がい学生を抱えている学部・学科では、これまでにいろいろな試行錯誤を積み重ねながらサポートを行ってきました。障がいの種類や程度はさまざまあり、それぞれに応じたサポートが必要です。2月には大宮学生課が中心となって、現行の取り組みの見える化を図るとともに、障がい学生に関する相談は学生教職員相談室が一元的に受けて対応することとしました。これまでのノウハウなどを活かしながら、全学的な支援体制の充実に向け、関連部署と協力しながら取り組むこととします。

③ 「学びの実態」に関する調査・分析

工学部の2学科の1・2年生に対し、学びの実態に関する学籍番号記入のアンケート調査を実施(2014年9、10月)しました。こ

のデータと修学データからどのような学習支援が有用かなどについて分析を進めています。その結果を踏まえ、アンケートの見直すとともに学科数を拡大し調査・分析することを検討しています。

④ 授業で分からないことがあった時あなたはどのようにして解消していますか。



④ ポートフォリオによる生活習慣指導の試行

初年次の前期は、高校までの生活とは大きく異なる大学という新しい環境の中で自己管理する習慣を身に着けることが極めて大切です。そこで、1週間先の予定を立てた上で毎日の振り返りを記入するポートフォリオを使い、生活習慣について学生とともに考えながら指導することを、初年次教育の一環として試行することとしました。この試行は、工学部の1学科の協力を得て4月から進められています。ポートフォリオを使うことの学生への負担やその有用性などを検証し、学習サポートとは別の側面での学生支援の在り方などについて議論を深めることとします。



▲工学部 英語学習サポート室入口



▲システム理工学部 学習相談コーナー(イコパ)



▲システム理工学部 英語学習サポート室



▲デザイン工学部 学習サポート室

グローバル推進部門

グローバル推進部門長 新井 民夫

センター員

新井 民夫 (教育イノベーション推進センター)

ミリアラ ムラリダ (教育イノベーション推進センター)

橋 雅彦 (教育イノベーション推進センター)

吉久保 肇子 (教育イノベーション推進センター)

山崎 敦子 (工学部 共通学群)

吉村 建二郎 (システム理工学部機械制御システム学科)

櫻木 新 (デザイン工学部デザイン工学科)

グローバル推進部門は、2012年度に文部科学省に採択されたグローバル人材育成推進事業を担う部門として発足し、スーパーグローバル大学創成支援(略称 SGU)に採択された2014年度からは、両者の推進を担当しています。グローバル化が進展する今日、本学の学生も海外の人々と積極的に交流しつつ、さまざまな問題を解決する能力を持つことが求められています。本事業では、本学の建学の精神である「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を一步進め、「世界に学び、世界に貢献する理工学人材の育成」を目指し、「学修・教育双方の質を保証する価値共創型教育」を基礎に、「日本のものづくり文化を活かす実践型技術教育」を推進します。大学は「世界水準の大学制度」を持つ組織となり、「教育・研究・開発コンソーシアムGlobal Technology Initiative Consortium」を展開して、世界の発展への貢献を進めます。このようにして、本学の活動が理工系大学の牽引役になるよう頑張っていきます。

【活動計画】

- ① 海外への派遣学生ならびに海外からの留学生の増員：海外派遣学生数並びに受入れ留学生数の増員により、大学内でグローバル化を実現します。そのために、海外協定機関の拡大、学生交流・研究者交流の多様化などを推進していきます。
- ② コミュニケーション力の強化：TOEICの定期的受験を定着させ、e-learningを活用した英語自習システムや課外英語の受講者数を増やします。加えて、専門科目の英語化を推進し、英語が日常的に使われる環境を作ります。
- ③ Global Technology Initiative Consortiumの設立：東南アジアを中心に大学・企業の連携を強化し、グローバルPBLや国際共同研究等で産業現場の課題や各国の社会課題を取り上げ、人材の育成・供給、イノベーションの創出等を加速します。
- ④ プロジェクト実践演習(PBL)の推進：グローバル人材に必要な問題解決能力を育成するため、グローバルに実施するPBLを実施しています。学科の特徴を出したグローバルPBL、国内の大学との異文化PBLを強化します。

「SITグローバルデー 2015」実施報告

ユニバーシティ・グローバル・アドミニストレーター
影山 礼子

国際的視野を持つことや国際社会に通用する人材になることの重要性を学生に意識してもらうためのイベントとして、5月7日に「SITグローバルデー 2015」を実施しました。

第1部では、まず学長が英語で講演を行い、自身の留学で得た貴重な経験を織り交ぜ、スーパーグローバル大学構想について話しました。学長自らが英語で語る姿は学生たちにとって新鮮で刺激になったと思います。

大ヒット映画「るろうに剣心」のアクションを手がけたアクション監督の谷垣健治氏がメイン講演に登壇し、ジャッキー・チェンに憧れ、言葉もわからないまま単身香港に渡った後、世界を舞台に活躍するスタントマンを経てアクション監督になるまでの軌跡を、映画などのメイキング映像を交えながら語りました。講演の最後は、今回のテーマである「ふみ出せ最初的一步」について「踏み出したければ踏み出せばいい。踏み出さなければ何もおきない。夢があるならまず踏み出してみるべき。」という熱い言葉で締めくくられました。



◀自身の経験を熱く語る谷垣氏



◀楽しくゲームに興じる学生たち

続いて、学生の谷澤英恵さんと新井民夫教授による対談では、国際的な視野を持つことの大切さや、国内でもできる国際交流などの体験談が語られました。

今回初の試みとして、TOEICの成績優秀者に対する表彰式も行われました。表彰はスコアによって学長賞、副学長賞、達成賞と分かれており、表彰対象学生からは「うれしい」「励みになる」といった声が多く聞かれました。

第2部では、学生団体による交流企画が行われ、留学経験者による体験談や、留学生との交流が行われた教室は学生であふれかえるほどの盛り上がりでした。さらにTOEIC攻略ワークショップには定員を上回る参加者が集い、TOEICへの関心の高さが伺えました。

今回は初回ということもあり手探りで準備を始めましたが、予想を上回る来場に恵まれました。今後も学生の心を刺激するようなイベントや企画を教職学協働で実施したいと思います。

Active Learning = Passive Teaching

工学部共通学群物理科目 中村 統太



▲ 学生に指導する中村教授

工学部の物理科目では、学生が主体的に学習する教育を実現できないか、しかも簡単に、という主旨で色々と試行錯誤しながら新しい教育法を開発しています。その一例をここで紹介したいと思います。

講義演習編

座学系授業は全て講義と演習がセットで2コマ連続配置されています。必ずしも同一学生が連続履修しているとは限りませんが、それを前提に考えます。大まかな流れは下図のようになっています。講義は板書のみです。物理の授業ではパワポや動画を用いても、学習効果が薄いことが既にわかっています。(Teaching Physics with the Physics Suite: <http://www2.physics.umd.edu/~redish/Book/>) また、大事なことは言葉で説明し、音声情報を学生の頭の中で概念形成させる訓練を繰り返します。これは教員の教育力向上にもなります。学習単元と授業回は微妙にずらし、演習を単なる講義の復習とはしません。そして、この教育法の最大の特徴は、**学生に模範解答を配布し他人のレポートを採点させる**点です。学生はかなり頭を使います。前回の復習にもなります。採点理由と採点者の名前を必ず明記させ、

採点や理由に不備があるものは採点者を減点します。教員は採点の妥当性をチェックするだけです。これは、論文投稿システムと同じで、教員はエディター、学生は投稿者とレフリーになっています。採点が不服な場合はアピールの機会も設けます。採点で、○×の判断がつかない場合には×にするルールにもしています。どんなレフリーに当たっても通る論文を書くのは、大事なことです。これで、学生のレポートの質がすぐに向上し、後から内容理解がついてきます。自分で勉強するという意識付けも次第に出来てきます。

実験編

一般的な実験指導法では、教員が実験テーマと測定の手順を説明した後、学生が実験開始します。最近、これもactiveに変えてみました。

まず、講義演習編と同じく前回の実験レポートを採点させます。採点理由は口頭で説明させ、それが終わると、今回の実験の手順や主旨を説明させます。この**説明ができないと、学生は実験を始められません**。正しく理解度を測るために、学生に応じて様々な質問を投げかけます。この質疑応答を実験の各チェックポイントで用意しま

す。終了時間までに全測定が終わらなかった場合には、実験を打ち切り、欠席扱いとして、補充実験日に一からやり直しというルールにしています。実験時間中、学生は必死で頭は常にフル回転しています。測定後のデータチェック時には、質疑応答の内容とレポートでの考察ポイントを文章化させます。かなり大変な作業になりますが、この手法導入後、実験終了までの時間は短くなり、学生の実験理解も格段に進歩しました。レポートのクオリティも向上し、予習もちゃんとするようになりました。

以上が、私が最近取り組んでいる教育法です。重要なのは、様々なプロンプトを通して、学生の理解度を把握し、臨機応変に教える側が変化することです。これが、Passive Teachingです。学生に与える問題・課題設定が授業の根幹です。また、文字・言語による情報伝達を重視し、国語力の向上にも心がけています。最後に、授業をactiveにするかどうかは教員の気の持ち方次第で、いつでも簡単に始められます。そして、学生自身の学ぶ力を信じてあまり教えたがらないことです。

講義時間

演習時間

研究室に戻って



▲ グループで課題解決に取り組む

「2015年度FD・SD講演会」 開催

FD・SD推進部門 センター員
ホートン広瀬恵美子



2015年4月1日(水)
大宮校舎において、
教育イノベーション推
進センターFD・SD推
進部門企画・実施の
FD・SD講演会が開催
されました。教職員
243名の参加のもと、
基調講演として本学
の村上学長による



▲村上学長による「100周年に向けての大学戦略」の講演

「100周年に向けた大学戦略について」とFD・SD推進部門長の
榎原先生による「本学のFD・SDプログラムについて」と題し
た講演が行われました。毎年年度当初に実施している当講演
会は、学外からの講演者に依頼することが多いのですが、今
年度は本学の目指す教育や様々な取り組みについて、学内講

演者にお話しいただきました。講演後のアンケートでは、本
学の教育目標・コミットメントや具体的なFD・SDのプログラ
ムとその意義などの理解が深まったといった声を非常に多く
得ることができました。基調講演に続き、教育賞受賞者の表
彰が行われ、その後、受賞者の実践的な教育手法の工夫など
が紹介されて、約3時間の講演会は終了しました。



▲大勢の参加者が熱心に傾聴された

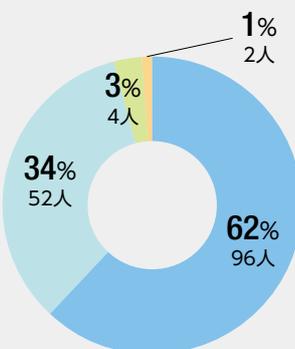


▲榎原FD・SD推進部門長による「本学FD・SDプログラム」の講演

参加者の感想・意見(アンケートから抜粋)

基調講演「学長による100周年に向けた大学戦略」

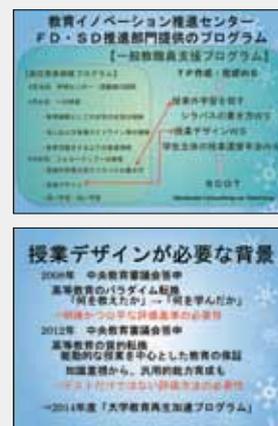
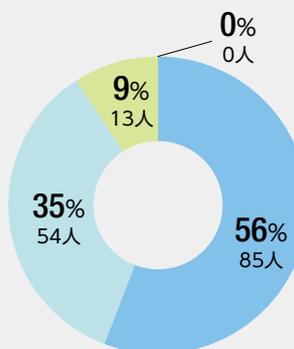
Q 講演者の用意した資料は
分かりやすかった?



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

基調講演「本学のFD・SDプログラムについて」

Q 内容は、FDに関する
関心を高めた?



コメント

- 本学の目標、方向性が明確に出されていて分かりやすかった
- SGU採択における大学の立ち位置について大変理解が深まった
- 大学の目標に向けて協働する気持ちが高まったと思われる
- 取り組もうとする教員を増やすことに資する講演だった
- 大学がどのように社会貢献できる学生を育成したいのか、大学の経営戦略が理解できた
- 本学のFD研修受講者が増えることが、授業改善につながると思う
- FD内容が素晴らしいので今後はワークショップに参加したい
- シラバスの役割の明確化、SCOTの意義についての説明が良かった

2014年度優秀教育教員顕彰

優秀教育教員選考委員会
委員長
中村朝夫



▲受賞された先生方と学長

4月1日のFD・SD講演会の中で、2014年度の優秀教育教員の顕彰と講演が行われました。今回は、表に示した通り、6件の教員個人および教員のグループに賞が与えられました。

参加者のアンケートを読ませていただいたところでは、個々の授業における具体的な工夫について大きな関心が寄せられており、また、講演に「刺激を受けた」「感動した」という感想が数多く見受けられました。なかでも、システム理工学部の木村元先生による実験の実演を交えた物理の授業や大学院工学マネジメント研究科のJMOOCを使ったオープン・エデュケーションに対する関心が



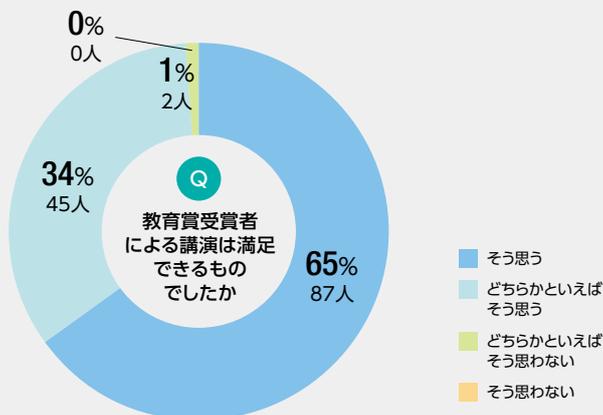
▲木村先生による実演を交えた講演

高かったように思います。木村先生は、縄跳びの縄を使った振動の実演の様子などを動画で示しながら、自然現象を観察しながらその背後にある自然法則を考えさせる授業の進め方の工夫を、失敗と改良のプロセスも示しながら説明され、短い時間ながら印象深い講演でした。

講演会の運営に関しては、講演件数を絞って内容を深めるべきであるという意見が多く、またそれに関連して、年複数回の実施を求める意見もありました。なお、少数意見ながら注目に値するものとしては、外部の教育学の専門家による講演も聴きたい、大学院の授業改善にも注目してほしい、研究力を高めるような講演を望む、などがありました。優秀教員顕彰制度の今後進むべき方向を考える上で、参考にしたいと思います。

所属・氏名	標 題
工学部土木工学科 遠藤 玲、岩倉 成志	地域連携PBL授業の効果的実践
工学部情報工学科 菅谷 みどり、杉本 徹	初年次プログラミング教育におけるロボットPBLの導入
システム理工学部機械制御システム学科 木村 元	システム理工学部における多くの基礎科目およびシステム・情報科目の優秀な授業の実施
システム理工学部生命科学科 越阪部 奈緒美	専門科目「食品栄養学II」における優秀な授業の実施
デザイン工学部デザイン工学科 橋田 規子	産学連携で鍛える実践的デザイン力
大学院工学マネジメント研究科 稲村 雄大、田中 秀穂、平田 貞代、加藤 恭子、安岡 孝司	JMOOC授業の開講

参加者の感想・意見



コメント

- 先生方の努力や情熱に触れ、心が洗われました
- 様々な取り組みから、自分の授業に使える部分を使っていきたい
- 他学科の授業の工夫点を把握することができる
- 各講義での工夫、特徴がわかりやすく、魅力のある講演だった
- 受賞された先生方の講演は例年にも増して内容が濃かったと思います
- いろいろなアイデアがつまっていた。教育の評価方法がわかる
- 現在、私自身の講義で悩んでおり、改善したい点について、大きなヒントを頂いた
- 努力が素晴らしい